



さいじょう

2013.5.1発行

第37号

市議会だより

発行/西条市議会 編集/市議会だより編集委員会 〒793-8601 愛媛県西条市明屋敷164 ☎(0897) 52-1261



桜で彩られたお堀より石鎚山を望む

3月定例会

平成25年度当初予算(総額718億8,491万4千円)を可決
平成25年度補正予算(総額△3億7,569万7千円)を可決
平成24年度補正予算(総額39億1,756万7千円)を可決

◇目次◇

代表質問…………… 2～4 P 一般質問…………… 5～8 P
議案質疑…………… 4～5 P 議案等審議結果ほか…………… 8 P

市議会を知るよい機会です。あなたも本会議を傍聴してみませんか！

議会の日程等、詳細については、議会事務局へお尋ねください。市議会では、本会議を記録した会議録を議会事務局、各図書館、各公民館に配備するほか、議会のホームページに会議録を公開しています！

(URL) <http://www.city.saijo.ehime.jp/gikai/>

3月定例会の会期日程

- 7日 本会議 (提案説明)
- 8日～10日 休会
- 11日 本会議 (代表質問)
議会運営委員会
- 12日 本会議 (質疑・一般質問)
- 13日 本会議 (一般質問)
- 14日 休会
- 15日 総務委員会
- 16日～17日 休会
- 18日 福祉文教委員会
- 19日 産業建設委員会
- 20日 休会
- 21日 臨海地域振興整備特別委員会
水資源調査特別委員会
- 22日 庁舎整備特別委員会
- 23日～26日 休会
- 27日 議会運営委員会
本会議 (討論・表決)

3月定例会

代表質問

自民クラブ

市長の政治姿勢を問う

問

市長に対する一連の不信任決議に関し、市長は、どのように受け止め、今後どう対応していく考えなのか。

また、平成25年1月17日から1月31日までの間、中学校区8か所で開催された住民説明会では、「説明会の名を借りた選挙の決起集会以外の何物でもなかった」、「市長は真実を伝えるために開催したと前置きしておきながら、事実をねじ曲げて説明している」などの声を聞く。開催の目的を含め、住民説明会の結果をどのようにみているのか。更に、多方面で本市のまちづくりが高く評価されている中、「西条市を再生できるのは今しかない、今ここから西条市を再生する」と語っているが、どのようなことを意図しているのか。また、「西条再生」に向けた取

組がどのように始まっているか。

答

今回の不信任決議については、新庁舎建設問題に関する一連の行動が判断で、議会軽視であると議会が判断をしたことによるものであると推察している。新庁舎の工事再開については、危機管理対策や財政面などの全てのリスクを考慮した上で判断をしたものであり、不信任決議については、非常に残念である。しかしながら、今回の不信任決議が結果として市民の市政への不信感や西条市のイメージダウン、市政停滞につながったことは事実であり、当事者としてはたいへん心苦しく、重ねて心からおわびするものである。

住民説明会については、新館整備事業や市の重要な事業について、市民に説明を行い、市民がじゅうぶんに理解し、納得した上で前に進めるべきと考えて開催した。今回の住民説明会は、中学校区で開催し、参加者は約2千400人に及び、一定の理解は得られたものと考えている。住民説明会を通して、市民の市政への関心の高さや熱意を感じ

じ、住民説明会の必要性を強く認識したところであり、市民との対話を大切にしながら、市民総参加のまちづくりを推進していきたい。

「西条再生」というフレーズには、前市政をベースとして、改良を加えながら、より良い西条市のかたちを創っていきたいとの考えが含まれている。これまでの市政のおかげで今日の西条市があり、感謝の気持ちを忘れることなく、新たなステージに向かって進んでいきたい。新年度は、市政の主役は市民であるとの認識の下、今まで以上に市民に接する機会を設け、対話のキャッチボールを繰り返していき、議会とも協調しながら、医療、福祉、教育環境の整備や地域経済の活性化など、本市が抱える諸課題の解決に向けて進んでいきたい。

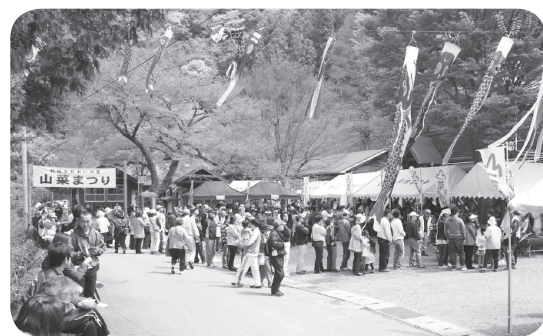
新政クラブ

どう取り組み！

市民の融和に向けて

問

市長選挙や市議会議員選挙を通じて地域間の溝が深まり、更に行政と市民との間にも溝が深まったとの声が聞こ



誰もが楽しめる交流イベントなどの開催を

える。一口に地域の一体感の醸成、市民融和と言っても、そこには時間と話し合いがなければ一朝一夕には成し得ない。今後は、市内4地域の人々が「合併して、ほんとうに良かった」と思える施策や行事を実施し、お互いを理解し合うことが、その溝を一つ一つ埋めていくことになるものと考えている。

幸い、新年度には水道料金の地域間格差の是正に向けた取組や、合併10周年記念イベントとして、石鎚山系を100マイル走るウルトラトレイルランの開催など、体育協会などを巻き込んでの工夫もなされている。

望まれるのは、市民が平等に恩恵を受けられるような政策は

もとより、誰もが楽しめるレクリエーションスポーツやイベントの開催などや、それらを市民に周知できる広報も大事である。市民誰もが住んで良かったと思えるまちにするため、今後、具体的にとどのような施策を推進していくのか。

答

多くの市民が望んでいるように、市政の混乱には終止符を打ち、これから融和一体化に向けての取組を考えていく必要がある。市民融和のためには、例えば地域を隔てることなく、誰もが同じ目的を持って楽しめる、人と人との交流ができるようなイベントなどの実施も効果的である。

合併10年を間近に控え、現在、10周年記念事業の実施を検討しているところであり、平成16年の合併を記念して取り組んだ事業などを参考にしながら、市民融和に資する、全市民的な一体感や達成感を感じることができると考えている。今後、多くの市民の意見を聞き、少しでも早く市民の心が一つになれるように、さまざまな取組を検討していきたい。

リベラル西条

市内道路の渋滞対策は？

市内の道路については、産業振興の観点から、市内外への物流を含めたアクセス性や通勤時の利便性向上が重要であるとともに、児童・生徒の通学時の安全を確保するために、渋滞解消や安全対策に取り組む必要があると考えるが、今後の方針について問う。



渋滞する産業道路

また、政府は国土強靱化を標榜し、平成24年度補正予算並びに平成25年度当初予算で大規模な予算計上を行った。本市においても、南海トラフ地震に備えた防災や減災対策は、災害に強いまちづくりを行う上で、国や県との連携を図りながら今以上に取り組む必要があると考える。市が管理するトンネルや道路の標識等の附属物、構造物の点検・修繕への取組について現状と方向性を問う。

答

平成25年1月25日に、愛媛県渋滞対策協議会より県内の主要渋滞箇所が公表されたが、本市においては、国道11号及び産業道路を中心に18か所の主要渋滞箇所が特定されている。渋滞対策としては、これまでも交通量の分散化を促すバイパス道路の整備や交差点改良に取り組んできたところであるが、今後、市としても国・県・市からなるワーキンググループにおいて、渋滞対策の検討を進める予定である。

点検・修繕の取組については、平成22年3月に、西条市橋りょう長寿命化修繕計画を策定し、橋りょうについては順次点検や

修繕工事を行ってきた。今回、国土強靱化基本法により、防災・安全交付金が平成25年2月26日に内示されたことを受け、この交付金を活用して、トンネルや道路構造物、道路附属物の点検及び路面性状調査を実施する予定である。

西条市民クラブ

合併10周年を間近に控えた市の現状と今後の展開は？

問

本市は、合併10周年を間近に控え、節目の時期にきている。そのような中、市長は昨年11月の就任後、初めての新年度予算を編成するなど、今後、新たな市政を本格的に進めて行こうとしている。施政方針の中には「時代とともに改める」、「新しい時代にかさわしい西条市」といった言葉が見受けられたが、これまでの市の取組をどのように評価し、新しい市政をどう進めて行こうと考えているのか。

また、行政サービスの向上を図るため、公民館体制を強化する方針が打ち出されているが、体制の内容と実施時期について問う。更に、公民館体制の強化

については、公民館施設の改修や建て替えなど、ハード面の整備も必要であり、市民からは、駐車場の拡大やトイレの整備などを要望する声も上がっている。このような要望に因應するため、市はどのような取組を考えているのか。

答

前市政は、さまざまな分野で、数多くの宝を残してくれた。これらを引き継ぎながら更に磨きをかけ、市政を進めていきたいと考えている。また、国では政権が交代し、政策



大町公民館

の大胆な転換が図られようとしている中、合併10周年を迎える本市の更なる飛躍、発展を目指していくため、市民目線に立ち、事業を総点検し、時代に即した見直しを行っていきたい。

公民館は、地域住民の積極的な参画を得て、自主性や主体性を生かした運営が望まれており、地域の課題やニーズを的確に捉える必要があるため、平成25年度から施設の管理体制や事業の状況を踏まえながら、地域に居住するかたの中から非常勤の館長を任命したいと考えている。また、常勤主事を2名配置し、計3名の体制で、公民館の機能強化を図っていきたい。公民館の敷地拡大については、各事業の出席者から駐車場を拡大してほしいとの要望も聞いており、利用状況や敷地の状況をお勘案し、整備が必要な公民館から計画的に実施することを検討していきたいと考えている。また、公民館施設は、合併後、大町公民館など5館の建て替えを行なっているが、今後も建築年数や老朽化の状況などを見極めながら、トイレの修繕などを含め、計画的に整備を行っていきたい。

公明党西条市議団

市長の市政に対する

考えを問う

問

平成24年12月定例会において「市民の声」収集について尋ねたが、その際、市長は、「市政の原点は市民との対話にある、さまざまな機会を通して市民との対話を重ねていきたい」と述べた。更に、今回の施政方針の中でも「積極的にキヤッチボールを積み重ね、意思疎通を図り、その過程で得られた結論について、理解・納得い

ただながら前に進めていく、そんな納得のできる市政を推進していきたい」と市民のための市政を強調している。そのためには、市民に正確な情報を提供し、姿勢を示して本音で語り、議論を重ねていく中で信頼が生まれ、互いの真意がみえると思うが、市民のための市政についてどのように考えているのか。

また、市長選挙以来、一連の経過の中で、市内分断の現状がみられる。合併してから今日まで、融和一体に向けた取組に市民はもとより各種団体など行政や議会も積極的に取り組んでき

た。時間をかけ、相互の理解と協力に併せ、互いの地域間交流も図り、融和のまちづくりに努力してきたが、今や合併そのものを問われる声すら聞こえてくる現状である。この現状をどのように認識し、今後、修復に向けて、どう取り組むのか。

答

現在、本市では防災や地域医療、子育て施策など、行政が取り組むべき課題が山積しており、市政を停滞させることは許されない状況にある。市民本位の市政運営ができるようしっかりと努力していきたい。

市長選挙や2回の地域審議



地域審議会

議案質疑

平成25年度一般会計予算

どのようなものなの？

高齢者路線バス利用事業

(自民クラブ)

問

高齢者路線バス利用事業の目的と事業内容、助成対象を75歳以上とした理由を問う。

また、本事業は路線バスの利用促進を図る目的もあるとのことであるが、実施に伴い、現行バス路線の変更、便数の見直しは予定されているのか。

答

本事業は、市内の75歳以上の高齢者を対象に、通

どう進める？

屋内運動場の

天井などの耐震対策

(公明党西条市議団)

問

平成24年9月、文部科学省の通知により、公立学校における屋内運動場の天井などについて、平成25年度中に学校設置者が責任をもって総点検を行い、平成27年度までに落下防止策を完了させるよう指導がなされている。この指導を受け、市は、どのように検討したのか。

答

小・中学校校舎耐震改修は、平成20年度から実施しており、平成25年度までに校舎は100パーセント完了し、体育館などを含めた全棟の耐震化率は約80パーセントとなる見込みであるが、次年度以降も耐震改修を行い、体育館なども含めた耐震化率は、平成27年度末には100パーセントとなる見込みである。

なお、本事業は現行の一般バス路線を活用することによって高齢者の外出支援を行うものであり、本事業による現行バス路線の変更などは予定されていないが、今後は本事業も踏まえ、市全体の効率的な公共交通体系を検討する予定となっている。

建築物の天井や照明器具などの非構造部材の落下防止工事は、平成26・27年度の2か年で実施予定の体育館などの耐震改修工事の際に実施できるよう検討したいと考えている。

どうなる？公民館の運営

(無党派)

問 公民館の運営体制について、平成25年7月1日から全地区一斉に変更となり、館長は非常勤で地元のかたとし、公募は行わないとのことである

が、新体制での館長の選考方法や職務内容、勤務時間、給与面での待遇について、更に正規職員配置の目的について問う。

また、公民館は社会教育法に基づき設置された教育委員会所管の施設で、首長からの独立性がうたわれているが、どのように体制の変更を進めていくのか。

答 公民館の体制については、現在の2名の常勤体制から非常勤館長1名、常勤主事2名の3名体制を基本とし、

正規職員の配置も計画的に進めていきたいと考えている。非常勤館長については、地域の自主性や主体性を反映させた公民館の企画運営や、地域と行政との調整役として、地域の実情に精通した人材を自治会長など、地域団体の代表などからの意見を参考に選考し、市で最終的に決定する。更に、職務内容や勤務

時間、給与面での待遇については、近隣他市や他施設の現状などを踏まえて検討したい。

正規職員の配置については、中堅職員を配置し、地域との連携・協力を深めながら、地域の課題解決や特色ある地域づくりのための企画提案を行ってもらい、人材育成につなげていきたい。また、公民館は、教育委員会の所管であり、市民の意見を市長の気持ちとして伝えており、その中で新体制の検討を進めていただいていると考えている。

平成25年度一般会計補正予算

中川診療所の再開内容は？

(西条市民クラブ)

問 中川診療所の再開に伴う医師、診療科目や診療機器などについて問う。

答 診療所の再開に当たっては、医療法人周恵会近藤クリニックの医師を予定しており、診療科目は内科で、週2回、午後2時間程度の診療を予定している。また、主な診療機器として、エックス線撮影装置、デジタル画像診断システムなどを予定している。

一般質問

道の駅整備など

施策を見直す理由は？

(自民クラブ)

問 (仮称)西条道の駅整備事業について、平成24年9月補正予算に本事業の整備検討業務委託料が計上されており、

これから、施設の在り方などが検討され、議論が深まっていくものと考えていた。市長は世論が醸成されていないという理由で、平成24年12月定例会の一般質問答弁において突然、事業中止を表明したが、世論をどのようにして収集し、中止する理由は具体的にどのようなものであったのか。

また、西条産品の販路開拓や、人的ネットワークの構築などに貢献してきた西条市大阪事務所を閉鎖する理由について問う。

答 (仮称)西条道の駅整備事業については、平成24年11月の市長選挙期間中、多くの市民に問題点を投げかけ、意見をいただいた。その結果、民間の直売所と競合するという反対の意見などが多くあり、また、

事業実施に当たり、約29億円という事業費が必要であることから中止という判断をさせていただいた。

西条市大阪事務所は、職員1名を常駐させ、西条産品の販路拡大に向けた営業活動や販売促進イベントの実施などを積極的に行い、多くの成果を上げてきたところであるが、これまでの取組で一定の成果を果たすことができたものと考え、平成25年度以降は、市単独の事務所を置く予定はない。今後の関西圏における情報発信などは、これまでの成果を基に、関係機関及び企業等と連携しながら、最小の経費で最大の効果を挙げることでできるよう努めたい。

具体化の方策は？

新市建設計画

(自民クラブ)

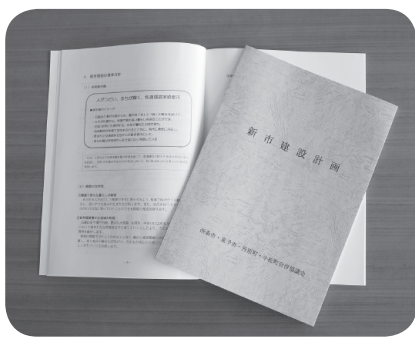
問 新市建設計画には、基本方針に「人がつどい、まちが輝く、快適環境実感都市」というキャッチフレーズが掲げられているとともに、本市のあ

るべき将来都市像が列記されている。この計画を基に市政を推進していくことになるが、計画

を具体化していくために、市長はこれからどのようなアクションを起こしていくつもりなのか。

答 本市は、これまで新市建設計画などに基づき、48件の合併特例債を活用した事業に取り組んできた。この合併特例債の活用を5年間延長するため、新市建設計画の見直しを行うこととしている。見直しでは合併後の成果を再検証し、必要な施策を選択して計画に盛り込み、実現をしていきたい。

また、市の課題を実現していくためには、合併特例債のほかに、国・県が講じる諸制度を活用し、支援を受けることが必要であり、情報収集や要望活動などの働きかけが重要となるが、市長自身が先頭に立って行動し、施策を実現していきたい。



新市建設計画

成人式などでの 不穏当発言について問う

(自民クラブ)

問

市内2会場で行われた新成人を祝う成人式において、市長は主催者として式辞を述べたが、新成人へのお祝いの言葉もそこに、自らの非を何ら認めることなく、議會を批判し、自己弁明を長々と繰り返した。この行動に新成人からも非難の声が上がったと聞き及んでいる。

更に、小・中学生が千人以上参加する、ちびっこ駅伝大会の開会式においても不信任決議の話をしたようである。

新成人の晴れの舞台をだいなしにし、政治のことなど全く関係のない子どもたちを巻き込んだ市長に11万4千人の首長としての資質が備わっているのか疑問である。新成人や幼い子どもたちに対し、どのように謝罪し、責任を取るつもりなのか。

答

新成人の皆様は、新しい市長として市政の状況を報告させていただいたつもりであるが、自身の発言により、成人式などで不愉快な気持ちにな



成人式

ったかたがいることを認識し、その後の住民説明会などにおいてお断りをさせていただいた。たいへん申し訳なく思っている。今後市民の意見を真摯に受け止めて、市民との対話を大切にしていけることが重要であると考えている。

市の食育の現状と 今後の方向性は？

(新政クラブ)

問

少子・高齢化が加速する中、今後、医療費の負担増が懸念されているが、食育の推進により、市民一人一人が食を通じた健康づくりに取り組む

ことで、健康な日々を送り、その結果、医療費削減ができるのではないかと考える。そこで、平成22年3月に西条市食育推進計画が策定されてから3年経過するが、本市の「食」を取り巻く現状と課題、今後の計画推進の方向性について問う。

答

西条市食育推進計画策定後、保健センターや学校、保育所、幼稚園など市域全体で積極的な取組を推進している。更に、庁内の関係部署においても取組を進めており、食育への関心はかなり高まったと感じているが、まだ実践にはじゅうぶらん結びついていないのが現状である。このため、食育の実践に向け、自立した食生活への知識と能力を子どもたちに身に着けさせること、生活習慣病予防のための食事について、正しい知識の普及や運動習慣の浸透を図ることに重点を置いた取組が必要であると考える。

今後の計画の推進については、運動習慣とともに食生活改善などの健康づくりに取り組むことで食生活を見直し、メタボリックシンドロームの予防を図り、将来的な医療費削減にもつなげ

ていきたいと考えている。今後とも食に関わる関係機関が連携し、多くの市民が食育を実践していけるよう、これまでの取組をより強力に推進していきたい。

学校給食における 地産地消の取組は？

(新政クラブ)

問

学校給食に地元農産物の食材を使うことで、子どもたちが興味を持って給食を食べるようになり、ひいては本市の農業を守ることができると考えるが、学校給食における地産地消の取組について、現状と今後の課題を問う。

答

学校給食における地産地消の取組状況については、現在、給食用食材は校区内を中心とした小売店に直接発注しており、地元農産物の使用に努めている。献立については、地元食材の活用や郷土料理を取り入れるなど、多様な献立作りを行っている、食への関心づくりに努めているところである。

今後、安定して計画的に地元農産品を取り入れていくためには、食材の品目や必要数量、ま



地元農産物の活用を

た同等品の確保や、保護者の負担とならない価格設定、配送方法などの問題、直売所などを使用する場合には、従来給食用食材を納品して来た地元商店の理解を得ることなどの課題があり、このような課題を解決するためには、行政内部の関係部署及びJAなどの生産者団体との連携が不可欠である。そのため、来年度には、学校PTA関係者、栄養職員、給食調理員、行政職員などで組織する西条市学校給食会において、地元農産物の活用について協議を進めていく予定であり、これからも地元農産物を積極的に使用していきたいと考えている。

どう対応する？

西条市の医師不足

(リベラル西条)

問

全国の市町村で医師不足が大きな問題となつてい

また、全国的な傾向以外で本市特有の医師不足の原因・課題はあるのか。

答

平成16年度に始まった新医師臨床研修制度により、



医師確保は喫緊の課題

全国的に地方大学医局への入局者が減少し、大学医局の医師が不足した結果、大学医局は、それまで派遣していた地方病院から医師を引き揚げざるを得なくなり、本市においてもその影響を大きく受け、医師数は、平成14年末の222人から平成22年末には185人と、37人、16・7パーセント減少している。小児科・産婦人科医師の偏在、不足については、本市においても喫緊の課題であり、優先して対応すべきと考えている。

これらの問題については、本市特有の原因というものはないが、新医師臨床研修制度の見直しや、医師確保対策の充実を引き続き国や関係機関に強く働きかけるとともに、本市において新たに創設する医師確保奨学金制度により、地域医療に貢献する医師の確保に努めていきたい。

早期の完成を！

東予港港湾整備

(リベラル西条)

問

東予港西条地区では、台風や荒天時の波浪などを防御する防波堤が未整備のため、港湾施設や艦装中の船舶、工場



東予港西条地区

施設などへの被害が心配されている。平成23年度に事業化された西条第1(東)防波堤の建設は、産業や企業活動、物流の確保、市民生活などの不安を解消するものであり、早期完成が求められているが、どのように取り組もうとしているのか。

答

この整備については、企業合理化促進法により愛媛県が実施するものであるが、本市も事業総額の3分の1の費用を負担し、平成28年度の完成

を目指して取り組んでいるところである。本市においては、これまで関係漁協との漁業補償交渉の連絡調整を市職員が行うほか、県との連絡を密にし、事業が円滑に進むよう努めてきた。

今後も東予港港湾整備促進期成同盟会と一体となり、早期完成に向け、更に関係機関に要望活動を行っていききたい。

まちづくりに生かすには？

白い羽のポスト

(西条市民クラブ)

問

千の風になつたあなたへ贈る手紙を投函できる白

い羽のポストが、「千の風になつて」のまちづくり実行委員会により制作され、市へ寄贈された。このことは実行委員会のメンバーを中心として、長年努力を積み重ねてきたことによる大きな結実であると評価をするものであるが、今回の設置を今後のまちづくりにつながるよう生かしていこうと考えているか。

答

千の風になつたあなたへ贈る手紙事業を実施することで手紙に込められた、悲しみを乗り越え今を力強く生きる

人の思いや姿を紹介することにより、多くの人々に生きる勇気や希望を伝えるとともに、名曲にちなんだ新たな文化創造都市西条市を全国に発信したい。

また、手紙募集の成果を表彰イベントや朗読会の開催、作品集の発刊、作品展の開催などさまざまな形で披露し、交流人口の増加、地域の活性化につなげていきたい。

更に、手紙事業をまちぐるみで実施することにより、手紙のふるさとにふさわしい教育・文化の薫り高いまちづくりを目指していきたい。



西条図書館に設置されている白い羽のポスト

3月定例会における議案等の審議結果

Table with columns: 議案等番号, 件名, 議決結果. Lists various council resolutions and their outcomes.

引き下げを求める！ 国民健康保険税 (無会派) 国民健康保険加入世帯の状況をみると、加入世帯の平均所得は107万2千円、平均的世帯の税額は19万3千800円、国民健康保険税(国保税)の滞納額は約5億円、滞納世帯は約3千世帯、短期保険証発行部数は382世帯(624人)、資格証明書発行部数は130世帯(164人)となっており、これら各種の指標からも、国民健康保険加入世帯は大変な状況になっている。

帯は大変な状況になっている。一般会計の財政調整基金が50億円近くあることから、この基金を使い、国保税を1人平均1万円引き下げるべきではないか。 国民健康保険特別会計は、平成23年度決算で約2億8千万円の赤字となり、一般会計からの赤字補填を行ったことから、平成24年度の税率改正では、被保険者の急激な負担増とならないよう、一般会計から4億円の財政支援を行いつつ、被保険者1人当たり約7パーセン

トの負担増をお願いした。 国民健康保険特別会計は、独立採算を基本原則としており、国・県の支出金、保険基盤安定制度などを除き、国保税で運営することとなっていることから、税率の引き下げは困難であると考えている。 なお、国民健康保険制度については、抜本的な改革が必要であると、一般会計から支援をしていかざるを得ない状況であり、今後、状況を見ていきたい。

副市長の任命

副市長に、 真鍋 和年氏

監査委員の任命

を任命することに同意しました。 監査委員に、 阿蘇 浩造氏 徳 増 達 史 氏 黒 河 紘 一 郎 氏

教育委員会委員の任命

を任命することに同意しました。 教育委員会委員に、 菊池 篤志氏 田邊 重義氏

を任命することに同意しました。

編集後記

木々の緑が目にも鮮やかな季節になりました。青空の下、ハイキングに出かけ、マイナスイオンをいっぱい浴びながら、美しい新緑の色と香り、鳥のさえずり、川のせせらぎなどで五感を刺激し、リフレッシュしてみませんか。

ご意見・ご感想をお待ちしております。



市議会だより編集委員会

- 委員長 一色 輝雄
副委員長 児玉 千春
委員 越智 俊幸
岡村 重治
武田 啓郎
黒河紘一郎
藤田 節雄
伊藤 孝司
荳田 元近

西条市明屋敷164番地
西条市議会事務局
TEL 0897-5211261